



東京都立高島特別支援学校

外部専門員通信

Vol.1

令和6年7月17日
校長 石川 拓

外部専門員の紹介

今年度も外部専門員通信を発行します。保護者の皆様に、外部専門員を活用した本校教員の専門性を高める取り組みと御家庭と共有したい外部専門員からの助言などを紹介していきます。昨年度に引き続き、臨床心理士、理学療法士、言語聴覚士、視能訓練士、歯科医師、ICT アドバイザーなどの、10 職種 14 名の外部専門員と連携を進めていきます。外部専門員からの助言や対話を通じて教員の資質向上と指導改善を進めていきます。

外部専門員それぞれの御専門・校内研修講師の担当

児童・生徒の自立と社会参加に向けた指導内容の充実を図るとともに、教員の専門性を向上させるため様々な専門職種の人材を招いています。職種とお名前、主な指導・助言の内容について紹介します。

理学療法士

平塚 乃梨 氏

身体機能面（身体の使い方や姿勢等）を評価し、学校生活や日常生活の中に取り入れやすい運動方法や、必要な装具の導入、適切な介助方法や必要な環境設定も検討します。

作業療法士

結城 七香 氏

生活動作をより良く行うための環境設定や道具の選定、手指の使い方の練習などを提案・助言します。各種支援機器導入時の操作環境について検討します。

【令和7年7月24日 教員研修講師担当】

言語聴覚士

高林 喜美子 氏

文字やことばの獲得や発話・発声を含めたコミュニケーション能力の評価方法と指導方法、認知発達を促すために必要な指導方法、食事場面での嚥下（えんげ）・咀嚼（そしゃく）の評価と指導の専門性向上を図ります。

他の言語聴覚士・歯科医師・理学療法士・作業療法士による指導助言と関連付けて、より効果的な学習指導や支援方法について検討します。

言語聴覚士

田中 伸二 氏

文字やことばの獲得や発話・発声を含めたコミュニケーション能力の評価方法と指導方法、言語表出の促進や不明瞭な発音を改善のための評価と指導方法の提案をします。AAC（音声言語に代わる伝達手段）の考え方を取り入れた支援機器を活用したコミュニケーション支援や、そのための認知発達を促す学習や支援の方法について検討します。

【令和7年7月24日 教員研修講師担当】

臨床心理士
大澤 ちひろ 氏

観察・面接・発達検査による評価を通して、個々の発達・成長・独自性・個性等の固有な特徴や課題を明確化する方法を検討していきます。
個々の発達状況に合わせた段階的な指導・支援方法について提案します。

【令和7年7月24日 教員研修講師担当】

学習アドバイザー
佐野 幸子 氏

児童・生徒の行動の背景や意味の読み取り方への助言と、児童・生徒自身の望ましい行動を引き出す指導や支援方法について提案をしていきます。教員が支援し過ぎたり制限し過ぎたりすることを減らし、児童・生徒が自己肯定感を高められる指導や支援方法に転換していくことを促します。

【令和7年4月30日 教員研修講師担当】

学習アドバイザー
富岡 康一 氏

太田ステージ評価と活用、発達段階に応じた学習課題の提案と指導方法への助言・提案をしていきます。個別のケースに応じた、教材作成や授業づくり、段階的な指導方法について検討していきます。

【令和7年5月1日 教員研修講師担当】

学習アドバイザー
若杉 哲文 氏

児童・生徒の実態や興味・関心に応じた教材・教具づくりや技術指導について助言していきます。学習指導場面での教材の使い方等の改善、作業学習の内容（計画）・作業環境の改善、児童・生徒が自立して学習できるようにするための補助具の製作と活用などの授業改善への助言も行います。

【令和7年7月28日 教員研修講師担当】

視能訓練士
釣井 ひとみ 氏

三田 真弓 氏

子どもの認知発達に応じた、多様な視力検査（ランドルト環を使った「右」「左」を答える検査や、絵を見て「鳥」「蝶」と応える応答を必要とした検査方法以外の、縞（しま）視標等を用いた視力検査を含む）の方法について検討します。斜視の有無や物の見方の観察、児童・生徒が注目しやすい教材提示の仕方や教材の色などの工夫、視ることを支援する環境設定や配慮についての提案、持っている視覚活用を促す課題の提案をしていきます。

ICT アドバイザー
海老沢 穰 氏

主にタブレット端末で活用できるアプリケーションやアクセシビリティ機能の活用方法に関する助言を行います。例えば、コミュニケーションや生活場面でのタブレット端末の活用方法、ICT 機器のアクセシビリティ機能の活用方法、より効果的に学習できるアプリケーションの紹介や活用方法に関する助言・提案をしていきます。

【令和7年7月30日 教員研修講師担当】

ICT 機器・支援機器
アドバイザー
寺田 真智子 氏

主にタブレット端末以外の ICT 機器・支援機器の紹介と、それらの機器を活用した授業作りや支援方法、AT（アシスティブテクノロジー：支援技術）・AAC を導入した QOL（生活の質）向上のための提案を行います。
支援機器等と児童・生徒のマッチングを検討する方法についても指導助言します。

摂食指導（歯科医）
西村 滋美 氏

摂食機能の評価に関する指導・助言、安全に食べるための摂食指導全般に関する指導・助言・提案（姿勢、食形態、摂食指導の技術）を行います。

除菌清掃
アドバイザー
足立 友秀 氏

作業学習において、サービス系作業種である「除菌清掃」を担当する教員への指導方法に関する指導助言を行います。

活用事例の紹介

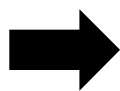
■ 机と椅子の高さ調整について

昨年度から作業療法士と理学療法士には、新転入の児童・生徒を巡回してもらい机と椅子の高さについて助言をもらっています。適正な姿勢や天板の高さにすることで、学習しやすい姿勢や教材との距離を保つことができます。行動が落ち着いたり学習成果が上がったりする児童・生徒がいます。机と椅子の高さは重要な学習環境設定の一つだと、教員に共有されつつあります。4月の入学・進級を迎えてから、担任が机やいすの高さを調整しています。4月から3か月が経つ間に身長が伸びる児童・生徒がいることから、1学期が終わって調整の時期に差し掛かっています。学びやすい環境で効果的な学習活動となるように、2学期にはあらためて机と椅子の高さを調整して学習環境を整えてまいります。

机といすの高さ調節



・机が高くて窮屈そうに見える。



・机の高さは下げて、椅子の高さを上げ、集中できそう。

【問い合わせ】

東京都立高島特別支援学校
TEL 03(3938)0415
副校長 田中 美奈
研究研修部 鈴木 悠介